

千葉商科大学 プレスリリース

寺野隆雄教授(基盤教育機構) 計測自動制御学会学会賞 論文賞受賞

千葉商科大学(学長:原科幸彦)の寺野隆雄(テラノタカオ)基盤教育機構教授が、2019年度計測自動制御学会学会賞 システム・情報部門論文賞を受賞しました。

計測自動制御学会は、1961年に設立された工学系の学会で、対象物の測定や工場の制御などに関する研究を中心に行ってきました。近年、研究領域は情報・社会も視野に入れるようになっており、本学の教育・研究との関連も深くなっています。寺野教授の論文「企業間取引に関するエージェントシミュレーションモデルの提案とその実データへの適用」は、この学会のシステム・情報部門論文賞を受賞しました。

寺野教授は、大規模なエージェントシミュレーション*1プログラムを開発し、複雑かつ動的な企業間取引のシミュレーションモデルと、帝国バンクの提供する実際の取引データとの関連を調べ、ビジネスシステム*2の変化について研究しました。その結果、近年の市場に多く見られる自由な企業間の取引に適しているとされる分権的取引構造*3の中に、集権的取引構造*4が混在している現象を解明しました。

*1「エージェントシミュレーション」…エージェント(本論文においては企業)の行動やエージェント同士のコミュニケーションなどによる相互作用から、複雑な社会現象をシミュレーションするもの

*2「ビジネスシステム」…企画、マーケティング、製品製作、検査、流通、サービスなどの一連の企業活動のプロセス

*3「分権的取引構造」…決定権限が組織の下位層に委譲されていること

*4「集権的取引構造」…決定権限がトップマネジメント層に集中していること

◆受賞理由(計測自動制御学会コメント)

本論文では、これまで説明することが難しかった「分権的取引構造の中に、集権的取引構造が混在している」現象について、開発したシステムを使って分析し、明確に理由が論じられている。これは、環境適応組織の領域における企業間取引の研究において新規性と有用性が高く、工学上貢献するところが大きい。



受賞コメント

計測自動制御学会はもともと工学系の学会ですが、近年は、複雑な社会問題も研究領域に含むようになってきています。本研究で利用している、エージェントシミュレーションとは、社会問題や経営問題などの研究手段として、計算機科学と社会科学の境界領域に属する新しい手法で、最近、理論的・実践的な適用が試みられています。この論文で扱っているテーマは、今後の経営課題の解決に深く関連するものと考えています。

寺野隆雄千葉商科大学基盤教育機構教授。株式会社みらい創造機構技術顧問。産業技術総合研究所招聘研究員。一般財団法人先端建設技術センター技術アドバイザー。

<本件に関するお問い合わせ先> 千葉商科大学 戦略広報センター
〒272-8512 市川市国府台 1-3-1 TEL: 047-373-9968 E-mail: p-info@cuc.ac.jp